

学校自慢

創立120周年を目指して ～次のステージへ さらなる飛躍を～

なるかわ けんいち
成川 賢一
県立多古高等学校校長



1 歴史ある地域の伝統校

本校は、明治40年に多古町立多古農学校として開校した後、昭和24年に県立へと移管し、地域の人材育成に寄与してきた。今年で創立116年目の伝統ある学校で、現在は普通科2学級、園芸科1学級を擁する小規模校である。

2 本校の特徴

(1)コミュニティ・スクール

平成24年にコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会を設置し、学校内外での様々な取組に対し、多古町や地域の方々から人的・財政的支援を頂いている。

①朝の挨拶運動

課業日の午前8時～8時40分に、学校運営協議会の委員が中心となり、生徒に登校時の声掛けを行っており、すでに10年以上続けられている。役場職員など地元の関係者の協力も得て、毎日約10名が交代で参加してくれている。

②地域のイベント参加

多古町あじさい祭り、いきいきフェスタTAKO（産業祭）等に園芸科、家政部が出店、吹奏楽部が中学校や民間団体と一緒にステージ発表で参加している。

③生産した農産物の販売

園芸科では、野菜の苗、シクラメンをはじめとした花卉の販売を行っているほか、米や野菜を多古町の学校給食用に提供（販売）している。

(2)少人数制の授業展開

選択科目以外に、国語・数学・英語で分割授業を展開している。

(3)丁寧な進路指導

1年生の早い段階から一人一人の進路希望達成に向け、各種ガイダンスを計画的に実施し、進路決定率100%を目標としている。

(4)充実した安全教育

多古町には鉄道が通っておらず、バスの本数も少ないことから、約20%の生徒に原付バイク通学を許可している。許可生徒には、年間数回の実技講習会を学校で実施し、香取警察署交通課にも協力を仰いでいる。

3 本校SDGsの取組

(1)いちごスムージーの開発・販売

農業クラブの生徒が、フードロス削減の観点から、本校農場で収穫した規格外の苺を使って美味しいいちごスムージーを考案した。何度も試作を重ねた後、道の駅多古の協力を得て一般販売し、購入者から好評を得た。



(2)コオロギプロジェクト（仮称）

今年度より、多古町・民間企業・東京農業大学との産官学連携事業として、コオロギの養殖・研究を始めた。生物部の生徒が世話・データ採りを担当し、来年度以降に研究発表を予定している。